

先日、お墓参りを終えた後、久しぶりに母と二人で温泉に行きました。小さな檜風呂に二人でつかりながら、お互いに娘や孫などについて、他愛もない話をしていました。すると突然、尖った女性の声が割り込んできました。「ちょっと！私、そこ、通りたいんですけど…」あまりの勢いに、私は思わず母と顔を見合わせました。すると彼女は、身振り手振りで母によけるように指示し、険しい表情のまま檜風呂につかったのです。すると、その場が一気に気まずい雰囲気となり、母と私はすぐに湯船を出ました。

そして、しばらくして、また彼女の尖った声が聞こえてきました。ふと見ると、小さな子ども連れの若い母親に対し、「そこの洗い場は、私が使おうとしていたところなんですけど…」と、言っているではありませんか。なんとその時、若い母親は、ちょうど自分の髪を洗っている最中でした。それにも関わらず、「今すぐそこをよけろ」という要求に、その場の空気がまた一瞬凍り付いたようになりました。

すると、そんな沈黙を破り、困惑していた若い母親に、笑顔で「ここをどうぞ」と話かけたのは、私の母親でした。続いて、「お子さんいくつ？」「かわいいね」などと、その場にいた方々も次々と母親に話しかけ始め、和やかな雰囲気となりました。

そんな時、ふと、「どうぞのいす」(香山 美子 作/柿本 幸造 絵 ひさかたチャイルド)というロングセラーの絵本が思い浮かびました。この絵本は、「思いやり」がテーマの、温かい気持ちになれるストーリーです。自分さえよければいいのではなく、自分以外の人のごとも考えられる大切さを教えてくれる絵本です。「どうぞ」に込められた優しい態度や思いやりの言葉は、言った人も言われた人も、そして周りにもいる人もみんな幸せな気分になさしてくれます。



さて、特に小さな子どもを連れて出かけると、思いもよらない様々な場面に出くわします。素敵な出会いもあれば、その逆もあることでしょう。そんな時、「子どもが自分を見ている」ということを意識することで、親の言動が変わってくることもあるのではと気づきました。今回、私の母親が、私のことを意識しての言動だったとは思いませんが、きっと、私が小さかった頃も、こうやって私に優しい笑顔の「どうぞ」を教えてくれていたのではないだろうかと思うことができ、ほっこりすることができました。

親になった私であっても、母の「どうぞ」の一言のおかげで、今でもとても清々しい気持ちになれました。それは、あの尖った声の彼女との出会いのおかげでもあります。そう思えば、なんだかちょっと得したような、なんだか不思議な気分になりました。【A】

○メルマガで取り上げて欲しい内容やご感想など、下記アドレスにお寄せいただければ嬉しく思います。（アドレス登録又は配信停止もこちらからどうぞ(^_^)

mailto:kosodatem@pref.iwate.jp

○メルマガのバックナンバーを当センターHPで閲覧することができます。

アドレスはこちら

「まなびネットいわて」（<http://www2.pref.iwate.jp/~hp1595/>）>「発行物・刊行物」>すこやかメルマガ

これからも、どうぞよろしくお願ひします(^_^)/

【発行】

岩手県立生涯学習推進センター

025-0301 花巻市北湯口2-82-13

TEL 0198-27-4555

URL:<http://www2.pref.iwate.jp/~hp1595/> 「まなびネットいわて」で検索